

第22回宮城県高等学校演劇コンクール

第17回東北地区高等学校演劇コンクール宮城県予選

プログラム

期日

1984年11月17日(土)~
18日(日)

会場

小牛田町文化会館ホール

主催 宮城県教育委員会
宮城県高等学校演劇協議会



ご あ い さ つ

宮城県高等学校演劇協議会
会長 鈴木和夫

深まりゆく秋の中で第22回宮城県高等学校演劇コンクール県大会が開かれようとしています。

第1回の昭和38年以来、形や規模に変化はありましたが、高校生自らの手に成る舞台創造を通して、高校演劇教育の充実と発展、地方文化の向上、豊かな情操の涵養を目ざす開催目的は一貫して変ることなく年々隆盛の一途をたどってまいりました。

これは、顧問はじめ生徒諸君など関係者の長年にわたる努力の結果であり、この目的・意義が内外によく理解されつつあるものにとよこびにたえません。

今年は、10月19日の南部地区大会を皮切りに4つの地区大会に34校が出場し、その成果を披露合いました。会場も、その地区のハイレベルの施設を使用でき、県大会では初めて仙台を離れ、小牛田町文化会館という恵まれた施設を使用できることになりました。

各地区から選ばれた11校がすぐれた施設・設備を充分に活用して、日頃の活動の成果を発揮し、若者の情熱を傾けたみごとな舞台を創りあげるよう、また、裏を支える実行委員会も息の合った大会運営によって舞台を盛り上げ、観客の皆様におよこびいただけるものとなるよう期待してやみません。

最後に、本大会を主催して下さった宮城県教育委員会や小牛田町教育委員会、当文化会館並びに、後援をいただいた各団体、関係各位に心から御礼を申し上げご挨拶といたします。

審 査 員

全国高等学校演劇協議会 豊 博 秋 氏
俳 優 田 部 初 枝 氏
宮城県高等学校演劇協議会 阿 部 順 夫 氏

< 式 次 第 >

◇開会式 11月17日(土)

1. 開会宣言
2. 挨拶
3. 審査員紹介
4. 日程説明、諸連絡

◇閉会式 11月18日(日)

1. 審査講評
2. 審査結果発表
3. 表彰
4. 挨拶
5. 閉会宣言

< リ ハ ー サ ー ル >

	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7
11月15日(木)	準備	塩釜女	朴 沢	常盤木	東 北	白百合					
11月16日(金)	準備	南郷農	若 柳	三 女	鼎が浦	白石女	名取北	仕込			

< 大 会 日 程 >

	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8
第1日 11月17日(土)	舞 台	開 会 式	上演① 名取北	上演② 白石女	上演③ 鼎が浦	上演④ 宮三女	上演⑤ 朴 沢	上演⑥ 若 柳	後片付け および仕込			
第2日 11月18日(日)	準 備	上演⑦ 常盤木	上演⑧ 東 北 東 北	上演⑨ 東 北	上演⑩ 白百合	上演⑪ 南郷農	後夜祭	閉会式				

< 当 日 役 割 分 担 >

	総 務	受 付 案 内	幕 間 討 論	舞 台 進 計	台 行 時	会 場	警 備	接 待	舞 台	記 録	放 送
11/17(土)	実行委	黒 川 向 山	仙 高 黒 川	一 女 涌 谷	仙 女 尚 綱	仙 台 仙 工	ドミニコ 中新田	育 英 一 高	ウルスラ 二 女	泉 宮 城	
11/18(日)	実行委	三 島 中新田	尚 綱 涌 谷	ウルスラ 黒 川	二 女 聖 和	育 英 仙 台	涌 谷 宮 城	仙 工 黒 川	一 女	仙 女 ドミニコ	

- 注 1. 上演後幕間討論を行います。
2. 上演中の会場内でのフラッシュ使用撮影は固くお断りします。
3. 上演時間は多少変わることがありますのでご了承ください。

宮城県名取北高等学校

最優秀
*作 川名 又一
*脚色 演劇部

RECAST

*顧問 大石 和彦, 川名 又一
*部長 佐々木まゆみ

一ふりむいたときそこにみえる階段の数を
かぞえたことがあったらうかー

◎ スタッフ

演出 佐藤 美雪(3)
演出助手 渋谷 由美(2) 久野 博子(1)
舞台監督 鈴木 貴和(3)
舞監助手 富田 優子(2) 菅井 利江(1)
大道具 手塚 友明(2) 嶺岸久美子(2)
佐藤 珠美(1) 遠藤智美子(1)
佐藤真奈美(1) 佐々木まゆみ(3)
小道具 佐藤ゆかり(2) 森 美由紀(1)
菅井 利江(1)
照明 菅原むつみ(3) 大友まゆみ(1)
久野 博子(1)
音響効果 庄司利恵子(2) 猪瀬 幹雄(3)
庄司 智子(1) 庄子 英子(1)
衣裳,メイク 石川 美香(2) 佐藤亜矢子(1)
制作 佐々木まゆみ(3) 佐藤ゆかり(2)
佐藤 珠美(1)

◎ キャスト

立木亜樹子 鈴木 貴和(3)
伊藤 澄江 菅原むつみ(3)
桜井 敬子 石川 美香(2)
高田 香子 遠藤智美子(1)
松沢 由香 佐藤 珠美(1)
鈴木 直美 佐々木まゆみ(3)
野坂克三郎 手塚 友明(2)
松沢 初江 久野 博子(1)
ニワトリ1 嶺岸久美子(2)
ニワトリ2 森 美由紀(1)
ニワトリ3 佐藤ゆかり(2)
ニワトリ4 庄司 智子(1)
ニワトリ5 佐藤真奈美(1)
ニワトリ6 菅井 利江(1)
ニワトリ7 佐藤亜矢子(1)
先生の声 手塚 友明(2)

◎ あらすじ

コッコケコケコッコ朝が来た。
いつものように気だるい朝。
百ワットの電燈の冷たい光。
コッコケコケコッコいつものように
今日もまた 明日もまた……。

×

×

×

ここは家庭学園“希望寮”。社会に適応できなかった少女達が、再訓練を受ける所です。
亜樹子もそんな少女の1人。責任ある“班長”を任せられ、卒園も間近な身です
ある日、同じ班の由香が恋人に逢いに脱走してしまいます。仲間の様々な反応、そして
亜樹子の心中は……？

◎ 演出のことは

「無いっ！無いよお！脚本が無いよおっ！」6月中旬頃の私達の叫び声……既製の脚本でなかなか演りたいものが見つからない……。

そこに、救世主ベクトルヌーが舞い降りたのです。満面の笑みを振り散きつつ、今回の作品を書いて下さいました。

「やったっ！これで文化祭に出れるっ！コンクールに参加できるよおっ！」

と、喜んだのも束の間。ハタと気付いたことがあった……。

「うちら創作劇演んの、初めてでないっ？」それからが大変！暗中模索の毎日でした。

今日までみんなホントよくがんばった。(10円ハゲ作った人もいたし)さあて、もうすぐ本番。北高パワーを篤と御覧下さいませ。

宮城県白石女子高等学校

*顧問 大津 幸一, 松崎さゆり
*部長 長山いづみ

*作 野辺 由郎 流れ星四番

◎ スタッフ

演出 佐藤 広美(1)
舞台監督 及川 智子(2) 富岡 耐子(1)
装 置 飯田はるみ(2) 近江 綾子(1)
照 明 高橋 尚美(1) 小野真由美(1)
黒沢 裕子(1)
効果 宮城 久江(1) 富岡 耐子(1)
衣 裳 及川 智子(2)

◎ キャスト

M(女) 東海林美和子(2)
女 A 水戸由里子(1)
女 B 本田 恵子(2)
男 A 佐藤 広美(2)
クロス1 長山いづみ(2)
クロス2 但木美枝子(1)
クロス3 小原真由美(2)
クロス4 泰明 矢子(1)

◎ あらすじ

あらすじ, あらすじ……。

あらすじとはいわゆるあらすじで、それはちがうだろうといわれても、これがやっぱりあらすじで。あらすじはあらすじ以外の何物でもありませんし、あらすじをあらすじしようなどという考えは甘いわけで、あらすじだからといってバカにしてはいけません。

最近ではあらすじもめったにお目にかかれない代物になってしまいましたが、それでもきちんと、そしてしっかりと存在しているのであります。あらすじとて思い出されるのは小さいころのあらすじでしょう。やはり……。

そこで、結局この劇のあらすじはといいますと、いつもみなさんが心に想ってウズウズしていること……でしようね。多分。

◎ 演出のことは

演出のことはといっても……。

脚本をとりあげた理由。ある意味で自分との共通点を見つけたといえるでしょう。

何を表現しようとしたのかということは、やはり一演劇一ですから、舞台から感じとってほしいものです。

いかにも演劇の何たるかを知っているような言い方ですが、自分達で演劇を作ったことのある方ならきっとわかっていたらと思うので。そして、経験のない方にも何か心にひっかかる……よくわからないけど考えさせられる……そんな劇に仕上がってれば幸いです。

兎にも角にも、様々な困難を乗り越えて作った私達の劇を、是非……。

11月17日(土) 上演3

東部地区代表

宮城県立鼎が浦高等学校

*顧問 川島 京子、毛利理恵子

*部長 小野寺ゆき

*原作 大谷 駿雄

*脚色 演劇班

はなまぼろし

◎ スタッフ

演出 小山 睦(2)
 助演出 畠山恵理子(2)
 舞台監督 小野寺ゆき(2)
 助舞台監督 三浦 洋子(2)
 装 置 小野寺ゆき(2) 高久 和子(3)
 中澤久美子(3) 藤原 淳子(3)
 照 明 佐藤美香子(2) 三浦 洋子(2)
 僻屋 浩美(3) 斎藤 美幸(3)
 小野寺恵子(3)
 音響効果 鈴木 ミサ(2) 畠山恵理子(2)
 芦立江里子(3) 畠山 浩子(3)
 衣裳・メイク 三浦 浩子(1) 小山 睦(2)
 木下 尚美(3) 小湊 治子(3)

◎ キャスト

学 生 佐藤美香子(2)
 桜 子 小野寺ゆき(2)
 老 人 小山 睦(2)
 老 婆 藤原 淳子(3)
 若 者 畠山恵理子(2)
 娘 三浦 洋子(2)
 母 鈴木 ミサ(2)
 風の一群
 子 供

◎ あらすじ

人里離れた山村に、「嫁入り前の娘が他村から来た若い者の飲んだ茶碗に触れると、子供を身籠る……。」という伝説があった。

桜花のまっ盛り。

村に住む不思議な娘、桜子。

村に迷い込んだ一人の学生。

心の弱い学生は「自殺」を目的にやって来た。しかし、村の人達の暖かい心に触れて「自殺」を思いとどまり、桜子に好意を抱く。桜子は学生の心の弱さに次第にひかれて行く。

習朝、学生は去り、桜子は学生の飲み残した茶を飲み言い伝え通りに子供を身籠った。

翌年、学生は再び村を訪れた。そして……。

◎ 演出のことは

——「水子」—— 暗黒の世界に生きる子供達。私達はその存在を、その叫びを無視してはいないだろうか。

得体の知れない怨念を宿す不思議な村里の因習が、現代の生に関する様々の風潮に対して投げかけている何かを探りあててみたい衝動にかられてこの劇を選んだ。人間として宿った生命が日の目も見ずに闇の中に葬られていく。生きて行くために殺す。誤ちを隠すために殺す。理由は全く異なっているが、因習との微妙な接点が私達の胸をつまらせた。

主題への切り込み方や、男役をこなす上での難問が目の前に立ちはだかっていたが、皆で力を合わせ練習に励んできた成課をお見せできれば……。

11月17日(土) 上演4

仙台地区代表

宮城県第三女子高等学校

*顧問 内海 郁夫

*部長 奥田奈緒美

*作 野田市太郎 小さな責任

◎ スタッフ

演出 河村 敦子(2) 佐々木みき(1)
 舞台監督 渡部 裕子(2) 北村 桂子(1)
 装 置 奥田奈緒美(2) 佐々木みき(1)
 照 明 岩崎多佳子(1) 渡辺 裕子(2)
 鈴木 裕子(1) 高橋 直子(1)
 衣裳・メイク 鎌田 直美(2) 鈴木 聡子(1)
 音響効果 今野 朱美(2) 北村 桂子(1)

◎ キャスト

姉 鎌田 直美(2)
 妹 奥田奈緒美(2)
 彼 鈴木 聡子(1)

◎ あらすじ

妹 —えっ

医者 どうしますか

妹 ……処置して下さい

手術後、窓口にて

受付 あの これお持ちかえりください。

つい、とだされる紙包み一つ

妹 どうして私が……

受付 あなたのものでしょう。うちの病院、このようなものは、持って帰って頂くことになっているんです。——

そんな、困るわ。……どうしようかしら…

あの人。そうよ、あの人に渡せばいいわ。

あの人のものであるんだから……ふふっ

◎ 演出のことは

母親になることは簡単だが、母親であることは難しい。

授業中、世界史の先生が何気なくおっしゃいました。同感/私それ同感 というあの時の感動を胸に、一生懸命やってきました。が、しかし。し・か・し、れ…れんしゅうじかん……練習時間が……。

未熟な私たちが力をあわせて創った劇ですが……少しでも、そうほんのほんの少しでも、この劇の中にあるものを感じていただけたら。 最高です。ハイ。

11月17日(土) 上演5

仙台地区代表

朴沢女子高等学校

*顧問 伊藤真理子
*部長 梶井 和美

*作 梶井 和美 鏡からの使者

◎ スタッフ

演出 梶井 和美(3)
助演出 佐々木久美(1)
舞台監督 佐藤真由美(3)
装置 針生美智子(3) 菅原まり子(2)
佐藤浩祐美(1) 佐々木裕子(1)
目黒久仁子(1) 菊地 千秋(1)
照明 太田恵美子(2) 梅津さなえ(1)
庄司 美子(1)
音響効果 高橋 幸(3)
佐藤百合子(1)
衣裳・メイク 針生美智子(3)

◎ キャスト

真 琴 梶井 和美(3)
マ コ ト 佐藤真由美(3)
黎 子(妹) 塩原 有紀(2)
館 林 佐々木久美(1)
母 加藤 広美(2)

◎ あらすじ

感情を表現する。簡単そうでとても難しいこと……女の子はいつも一人ぼっちでした。けれど心の中ではいつも皆と楽しく話したいと願っていたのです。そんな女の子の前に「もう一人の自分、が突然、現われて……」

◎ 演出のことば

今までのパターン化していた我が校の演劇から抜け出し何かを見つけたくて不安を胸に秘めながら、作りあげた初めての創作です。誰にも、淋しい時、楽しい時はあるはず、しかし、それを、全てうまく表現出来る人ばかりではないはず。もしも、鏡から「もう一人の自分、が出て来たら……あなたはどうしますか。先に落ちるのは「自分、か、それとも、もう一人の自分、か……」一生懸命、全力を尽くしてがんばります。是非ごらん下さい。

11月17日(土) 上演6

北部地区代表

宮城県若柳高等学校

*顧問 後藤 勝治
*部長 高橋 弘江

*作 神宮茂十郎

萩の花

◎ スタッフ

演出 高橋 弘江(2)
助演出 小野寺恵美(1)
舞台監督 佐々木克子(2)
装置 金野マユミ(2) 後藤美智子
高橋千代美(2) 千葉 幸子
岩淵としえ(1) 菅原 由美
照明 高橋 悦子(2) 佐藤あけみ
佐々木里江(2) 遠藤 直美
音響効果 佐々木克子(2) 岩淵 由希
衣裳化粧 三浦かおり(2) 大場 有子
松坂 昌美(2) 鈴木 篤子

◎ キャスト

すぎ 古川恵美子 (1)
よう 小野 典美 (1)
みつ 佐藤 昌代 (1)
のぶ 佐々木輝美 (2)
りく 千葉 裕美 (1)
たか 阿部 仁子 (1)

◎ あらすじ

1863年1月、王政復古令が発布されたにもかかわらず、倒幕派と佐幕派の戦いは続いていた。世に言う戊辰戦争である。会津藩征討令が出された時、わが仙台藩は奥羽25藩の盟約を破って、降伏した。しかし一部の武士たちは、それを潔しとせず戦い続けていたのだった。

りく、たかは武家の娘であり、武士姿に身をかえて白河口で参戦していた。百姓達は、人夫として駆り出され「畳背負わされて玉よけ」にされていた。百姓の娘ようは、父、兄を探しに戦場に出かけようとする。祖母がとめようとするが、それをふり切って出かけていく。そして、敗走して来た武家の姉妹は、この村のすすきが原にやって来る……。

◎ 演出のことば

演劇する楽しさは、他人の人生を舞台の上で生きることにある。私達は、役に没入することによってその人生を生きることができる。だからこそわずか60分の短い人生にすべてをかけて演技する。私達の演劇には、ヒーローもヒロインもない。いるとすれば全員がそのヒーロー、ヒロインなのだ。なぜなら演劇は人生を演ずるものであり、人生の主人公は常に、生きているその人なのだから。

この演劇は戦争(戦場そのものではないが)という極限状況下の赤裸な人間の姿を描き、戦争とは何かを問いかけるものである。しかし私達は、平和と幸福を願いながらも、自分の考えに忠実であればあるほど他を不幸にしてしまう、不条理な人間そのものを演じたい。

11月18日(日) 上演7

仙台地区代表

常盤木学園高等学校

*顧問 今野 仁, 小野寺典世, 木村 芳子

*部長 伊藤 明実

*作 ジャック・ハイフナー

*脚色 演劇部 俊秀

Far away -ヴァニティーズより-

◎ スタッフ

演出	鈴木 一恵(3)
助手	熊野ゆみ子(2)
舞台監督	今野 美香(2)
助手	小山かおり(1)
装置	布施 智美(1) 遠野矢千代(1)
	熊野ゆみ子(2) 伊藤 明実(3)
照明	小山かおり(1) 菱沼 明美(3)
効果	今野 美香(2) 窪田 由香(1)
	佐藤 清恵(1) 宇津沢圭子(3)
衣裳	鈴木 美香(1) 鈴木 一恵(3)

◎ キャスト

キャシー	菱沼 明美(3)
メアリー	伊藤 明実(3)
ジョアン	鈴木 一恵(3)

◎ あらすじ

「変わってしまったわ。
 私たち望んでるものは同じなのよね。
 心の底では何も変わってないのよね。」
 「多分ね。でも私はこう思いたいわ。
 変わるものもあるって……。」

◎ 演出のことば

磨いて下さい。
 我ら神童12人

11月18日(日) 上演8

東部地区代表

宮城県塩釜女子高等学校

*顧問 石山 義章

*部長 戸田 洋子

*作 津留 達児

母と娘

◎ スタッフ

演出	平井 智子(3)
舞台監督	鈴木加代子(2) 遠藤 文恵(3)
装置	丸田 礼子(1) 渡辺 宏江(3)
	渡辺 幸恵(2) 鈴木由紀恵(2)
	平 美香(1)
照明	渡辺 幸恵(2) 本郷 夕子(3)
	吉川 純加(3)
効果	平 美加(1) 遠藤 文恵(3)
	赤間 由美(3) 鈴木由紀恵(2)
衣裳	鈴木由紀恵(2) 風間 美紀(3)
	村山 明美(3) 三品 美樹(3)

◎ キャスト

あつみ	戸田 洋子(2)
母	足立 雅子(3)
よし子	早坂由美子(1)
とよ子	鈴木加代子(2)
キヨミ	三条みゆき(1)
近所のおばさん	平井 智子(3)

◎ あらすじ

あつみは仙台に行くべきか、東京に残るべきか、ふたつにひとつを選ばなければならない。生みの親と育ての親との間で揺れ動くあつみの心。はたしてあつみはどちらを選ぶのか……。

◎ 演出のことば

私たちがこの脚本を読んだとき、「う。くさい」というのが感想でした。でも、そのくさを感動にかえて、みなさんにお観せします!

11月18日(日) 上演9

仙台地区代表

東北高等学校

創作脚本賞

*作 演劇部 レ・ペ・テ

*顧問 斎藤 信雄

*部長 赤間 順

◎ スタッフ

演出 丹野 顕治(3)
 助手 赤間 順(2) 小玉 義男(1)
 舞台監督 斎藤 健史(3) 赤間 順(2)
 装置 赤間 順(2) 山本 路明(1)
 照明 久保 章(1) 小玉 義男(1)
 効果 長坂 正未(2)
 衣裳 菅原 健(2)

◎ キャスト

人魚姫少年 菅原 健(2)
 スナフキン 阿部 晃(2)
 お茶の水博士 高沢 豊行(2)
 夏の背景A・フュチュールA
 秋の予感A・ジョンシルバー(船長)
 核ちゃん 丹野 顕治(3)
 夏の背景B・フュチュールB
 秋の予感B・クリストーバルコロン(船員)
 兵器くん 石垣 哲哉(2)

◎ あらすじ

あらすじを書けと言われて困ってしまった。まず、何がなんでもいいから辞書を引いてみることにした。あらすじとは一体どの様なものをいうのかという期待と不安が私の脳裏を掠めた。話や物事の大まかな筋立て。といういかにも辞書らしい解答であった。私ははっきり言って愕然とした。嘘かホントかは知らないが、私自身あの諸葛孔明の有名な言葉にも、クリストーバル・コロンの航海日誌にもマホメットの言葉にも釈迦の教えにも、ついでにアルトールの「演劇とその形而上学」にもブレヒトの演劇論にもいづれかの形でこのあらすじといわれるごく抽象的な言葉についての問題の定義がなされていると聞いていたからである。

◎ 演出のことは

唐突ですが、無造作とはつまり無象さんなわけであって、象さん自身がたやすいことだと私は数年前まで思っていた。しかし無操作とは機械自身が象さんではないということを知っているのではないと言うことは知っていた。何故なら私自身無雑作であったがためである。さて、ここに出て来た無造作という名の象さんは、果たしてアフリカ象なのか、それともインド象、はたまた銅象なのかというところまで問題は発展し、結局この象は大きいということもあって虚象なのではないかという結論に達したのです。

11月18日(日) 上演10

仙台地区代表

仙台白百合学園高等学校

*顧問 穂積正一、桑島千賀子

*部長 一條 恵美

*作 演劇部(創作) おとなの国のアリス

◎ スタッフ

演出 利 京子(2)
 舞台監督 林 美由紀(2)
 助舞台監督 阿部 尚子(1)
 装置 中沢 洋子(2) 村山 みわ(1)
 阿部 尚子(1)
 照明 一條 恵美(2) 佐藤 博美(3)
 佐藤 厚子(1) 大久由加里(2)
 効果 丹野 美和(1) 今野 泉(1)
 遠藤 美紀(2)
 衣裳 古山 芳枝(1) 嶋野 光(1)
 岡本 久美(3) 渡辺 郁美(2)

◎ キャスト

アリス 佐藤 厚子(1)
 フランソワ 岡本 久美(3)
 グーフィ 遠藤 美紀(2)
 おばさん 渡辺 郁美(2)
 新聞屋 佐藤 博美(3)

◎ あらすじ

アリスは、明るくて、無邪気な女の子。でも、今年の誕生日から、アリスは、早く“世の中の役に立つ大人”になりたいと思うようになるのです。しかし、アリスのかいま見た大人の国は？そして、子供のころの夢は……？

◎ 演出のことは

子供のころの夢は実現しないと思って、あきらめてしまう人が多いといいます。でも大切な物を忘れていませんか。子供のころ、日が暮れるまでどろんこになって遊んだ日々。そくて、1日中、人形に話しかけていた日々。あのころの、きらきらした瞳のままで大人になるのはいけないことですか？大人になるにつれて、世の中や大人たちが、いろいろな手かせ足かせをします。でも、夢を信じる心さえあれば、きらきらした瞳の大人になれると思うのです。

この舞台をみて、夢が信じられるようになった人がいたら、私たちは、この舞台が成功したといえると思います。

11月18日(日) 上演11

北部地区代表

南郷農業高等学校

舞台美術

ウィリアム・サローヤン
(倉橋 健, 高見安規子共訳)

*顧問 斎藤 順子 安保 健

*部長 小堤 義裕

おーい、救けてくれ!

◎ スタッフ

演出 山田 雄子(2)
舞台監督 小堤 義裕(3)
装置 加藤 亨(3) 中村 一孝(1)
照明 小堤 義裕(3)
効果 大崎 真理(2)
衣裳 須田紀美子(2) 佐々木祐子(1)
メイク 佐々木美香(1)

◎ キャスト

若い男 中村 一孝(1)
少女 木村智恵子(3)
男(亭主) 牛渡 和彦(3)

◎ あらすじ

1920ごろ、アメリカのとある小さな田舎町、遊び好きの流れ者である若い男は同じように遊び好きである女と密通をしたかどで独房に入られる。そこで賄いをしている貧乏で誰からも振り向いてもらえない少女は若い男のやさしい言葉を本気で信じ、自分の命までも犠牲にしようとする。若い男は自分が助かりたいだけで少女に声をかけるが少女の純真さに心を打たれる。二人はお互いの遠い夢を求めてサンフランシスコへ逃げようとする。

しかし、町の間人がリンチにやってきて、若い男は町のいいなりになっている密通を犯した女の亭主に殺される。若い男は必死で少女が自分を助けようとしたことを隠そうとするが少女は若い男の死体を守ろうと留まる。

◎ 演出のことば

独房の中に閉じこめられた身勝手に嫌われ者の若い男、不器量で誰からも振り向いてもらえない薄幸な少女。私たちは孤独な二人の中に私たちの孤独を見出したように思います。私たちは追いつめられると独房の中に居るように孤独なのではないでしょうか。そして孤独であればあるほど人との触れ合いを心の底で求めているのではないのでしょうか。純真な少女は自分の命を犠牲にしてまでも流れ者の若い男を助けようとし、若い男も少女のけなげさに心を打たれ人間らしさに目ざめていく。二人の試みが失敗し若い者は殺され、少女が一人とり残される時、私たちは17才の少女の中に私たちの悲しみを感ずります。

以上のことを劇の中で訴えたいと思います。

昭和59年度宮城県高等学校演劇コンクール地区大会一覧

*印刷制作

◇南部地区大会 10月19日(日) 白石市民会館 5校参加

宮城県名取高等学校「ピエロ」大福 悟作……………演技賞(井上真樹子)
宮城県立船岡養護学校「流れる時を見つめて」杉山裕信作*……………演出賞(杉山裕信)
宮城県名取北高等学校「RECAST」川名又一作*……………最優秀賞
宮城県巨理高等学校「静かな海」原 博作……………装置賞
宮城県白石女子高等学校「流れ星四番」野辺由郎作*……………優秀賞・演技賞(水戸由里子)

◇仙台地区大会(第17回仙台市高等学校演劇祭)20校参加

10月22日(月)~25日(木) 仙台市民会館小ホール

仙台高等学校「まい子たち」西之園至郎作
宮城第一女子高等学校「サロンには鏡をかけろ」福田 薫作……………演技賞(佐々木知子)
仙台女子商業高等学校「赤ずきんーザ紙芝居」榊原政常作
宮城県泉高等学校「てーぶ・れこーだ」野田市太郎作
東北高等学校「レ・ペ・テ」演劇部作*……………優秀賞
聖ドミニコ学院高等学校「ダイナマイトと蛙たち」柴田北彦作
宮城県仙台南高等学校「いえろーしぐなる」佐藤寿江作*
仙台白百合学園高等学校「おとなの国のアリス」演劇部作*……………優良賞
朴沢女子高等学校「鏡からの使者」梶井和美作*……………優良賞
仙台第一高等学校「名も知らぬ飛魚」石川雅信作*……………創作脚本賞
聖和学園吉田高等学校「なんとなくくえすちょん」佐藤喜志夫作*……………創作脚本賞
宮城第三女子高等学校「小さな責任」野田市太郎作……………優秀賞
仙台育英学園高等学校「TRUE FRIENDS」演劇部作*
宮城県仙台南高等学校「赤ずきんーザ紙芝居」榊原政常作
常盤木学園高等学校「FAR AWAY」演劇部脚色……………最優秀賞
聖ウルスラ学院高等学校「ナルシス」演劇部脚色
仙台工業高等学校「東八番丁物語」綾野まさし作*……………舞台美術賞
尚綱女学院高等学校「さよならママ」四天王寺高校演劇部作
三島学園女子高等学校「家の時間」演劇部作*……………装置賞
宮城学院高等学校「不思議の国のアリス」演劇部作*

◇北部地区大会 10月26日(日) 中新田パッパホール 5校参加

宮城県黒川高等学校「げーむ・いず・おーばー」紺野路秋作*……………舞台美術賞
宮城県涌谷高等学校「試行錯誤」佐々俊之作
宮城県中新田高等学校「狐囃」早坂久子作
南郷農業高等学校「おーい、救けてくれ!」ウィリアム・サローヤン作……………優秀賞
宮城県若柳高等学校「萩の花」神宮茂十郎作……………最優秀賞

◇東部地区大会 10月30日(日) 塩釜市公民館 4校参加

宮城県松島高等学校「たおやかな偏光」雑賀 聖作……………演技賞(坪谷聡美)
塩釜女子高等学校「母と娘」津留達児作……………優秀賞
宮城県鼎が浦高等学校「はなまぼろし」大谷駿雄作……………最優秀賞・演技賞(藤原淳子)
宮城県多賀城高等学校「傍観」金宮淑江作……………衣裳メイク賞

宮城県高校演劇コンクールのあゆみ

- 第1回(昭38.11)
最優秀 尚 綱 「娘たち」
- 第2回(昭39.11)
最優秀 育 英 「同志の人々」
- 第3回(昭40.11)
最優秀 仙台第三「轍」
特別賞 三 島 「伽羅先代萩」
- 第4回(昭41.11)
最優秀 仙台工 「木龍うるし」
優 秀 白百合 「スカパンの悪だくみ」
優 秀 名 取 「次郎案山子」
- 第5回(昭42.11)
最優秀 宮 城 「静かなる朝」
優 秀 仙台女商「母と娘」
優 秀 電 子 「第三の火の中で」
- 第6回(昭43.11)
この年より仙台市公民館が主催。仙台市高校演劇祭となる。
最優秀 仙台工 「ふきだまり」
優 秀 宮 城 「唾のユミュリユス」
優 秀 電 子 「轍」
- 第7回(昭44.11)
最優秀 仙台工 「面(ますく)」(創)
優 秀 宮 城 「高等学校数学I」
優 秀 白百合 「長い長い橋の上で」
- 第8回(昭45.11)
最優秀 仙台工 「勉強を邪魔する奴は誰だ！」
優 秀 仙台商 「橋の上」
優 秀 第三女子「墨東記」
- 第9回(昭46.11)
最優秀 名 取 「魔女宣言」
優 秀 尚 綱 「虫めづる姫君」
優 秀 聖 和 「遠いふるさと」
- 第10回(昭47.11)
最優秀 ウルストラ「ある群れ」
優 秀 常盤木 「試行錯誤」
優 秀 白百合 「ある午後」
- 第11回(昭48.11)
最優秀 名 取 「影ぼうし紀行」
優 秀 常盤木 「当世幻談」
優 秀 ドミニコ「静かなる朝」
- 第12回(昭49.11)
最優秀 常盤木 「才女ありて」
優 秀 仙台女商「試行錯誤」
優 秀 育 英 「ポンコツ車と五人の紳士」
- 第13回(昭50.11)
最優秀 名 取 「流れ星四番」
優 秀 聖 和 「遠いふるさと」
優 秀 仙 台 「遊びましょ」
- 第14回(昭51.11)
最優秀 聖 和 「ある群れ」
優 秀 名 取 「聞いてる?ミランダ」(創)
優 秀 第二女子「夢の中へ」(創)
- 第15回(昭52.11)
宮城県教育委員会との共催となる。
最優秀 常盤木 「三途の川を渡りそこねた少女の話」(創)
優 秀 聖 和 「薯の煮えるまで」
優 秀 鼎が浦 「埴生の宿」
- 第16回(昭54.1)
地区大会(予選)制となる。
最優秀 東 北 「蜉蝣」(創)
優 秀 宮 城 「不思議な国のアリス」(創)
優 秀 常盤木 「鬆陰」(創)
優 秀 名 取 「遠くへ行った又三郎」
- 第17回(昭54.12)
最優秀 朴 沢 「しんでれら・げえむ」
優 秀 仙台第一「永い冬の終わる頃」(創)
優 秀 第二女子「栄光の日」
- 第18回(昭55.12)
最優秀 黒 川 「無(ガラスの迷路)」(創)
優 秀 朴 沢 「にび色の塔」
優 秀 鼎が浦 「蚊遣火」
優 秀 名 取 「おやめ!眠り犬を起こすのは」
- 第19回(昭56.12)
最優秀 鼎が浦 「灰スクール」
優 秀 宮 城 「Daydream believers」(創)
優 秀 名 取 「柳」
- 第20回(昭57.12)
最優秀 名取北 「遠くへ行った又三郎」
優 秀 宮二女 「生姜入りパンを焼く日」(創)
優 秀 涌 谷 「黒いゲーム」
- 第21回(昭58.12)
最優秀 仙台工 「BLUE」(創)
優 秀 黒 川 「寢(あしおと)」(創)
優 秀 名取北 「ブンナよ木からおりてこい」

<大会役員>

- 大会実行委員会 実行委員長 鈴木 和 夫(仙工)
副委員長 五十嵐 迪 雄(東北)
事務局長 阿 部 順 夫(仙高)
- <総 務> 渡辺 喜雄(仙高), 渡辺 繁(仙工), 永沢 幸助(向山)
半沢 道子(中新田), 程島 秀明(二女), 斉藤 秀雄(多賀城)
- <接 待> 田中 宣江(ドミニコ), 斉藤 尚美(宮城), 菊池 節子(ウルストラ)
巨理 正子(巨理)
- <受 付> 徳山昭光子(三島), 伊藤 俊(黒川), 小栗 典子(三島)
大石 和彦(名取北)
- <進 行> 工藤 章人(涌谷), 工藤 忠久(一女), 川村 裕子(泉)
藤村 延子(仙台商)
- <舞 台> 遣水 満雄(育英), 早川 克文(仙工), 吉城 文雄(一高)
斎藤 信雄(東北)
- <会 場> 佐藤喜志夫(聖和), 大石 孝(尚綱), 伊藤 公二(二女)
高橋寿美子(仙台商)
- <警 備> 高橋 義仁(仙台南), 佐竹 誠(仙工), 穂積 正一(白百合)
- <舞台技術指導> 金野 倫明, 伊藤 祥司, 松本 尚子, 芳賀 一弘

<生徒実行委員会>

委員長 橋井信一(仙工)
副委員長 菊田純子(宮城)

会計 登坂恭子(一女)
" 西山美那(尚綱)
書記 遠藤美幸(聖和)
" 船迫美佳(宮城)

・広報

中鉢弘美(一女)
館石有果(仙女商)
嶋野光(白百合)
今野朱美(三女)
斉藤ひとみ(仙高)
大久保章(東北)
黒田博(育英)
川村理枝(ドミニコ)
梅津さなえ(朴沢)
岩崎岳(仙工)
小室州一(一高)
小林由里(ウルスラ)
荒木敦子(尚綱)
菱沼美津枝(南)

・企画

渋谷加代子(聖和)
富田亜紀子(ウルスラ)
宮田真弓(向山)
布施智美(常盤木)
高橋邦枝(泉)
今野泉(白百合)
山口あけみ(一女)
阿部玲子(ドミニコ)
鶴巻泉子(二女)
富永利恵(南)
高野光司(育英)
佐々木みき(三女)
太田恵美子(朴沢)
阿部弥生(三島)
大場由紀子(")
大友久恵(南)
伊藤明美(聖和)
小玉義男(東北)
品川ゆみ子(仙女商)
庄子幸枝(")
宮田弘二(仙工)
岩井耕次(仙工)
佐川敏昭(仙工)

大会事務局 〒980 仙台市荒巻字国見東山12番10号
仙台高等学校内
宮城県高等学校演劇協議会事務局
(阿部順夫・渡辺喜雄)
TEL 0222-71-4471

宮城県高等学校演劇協議会加盟校

尚綱女学院高等学校
仙台女子商業高等学校
仙台工業高等学校
東北高等学校
東北電子工業高等学校
聖和学園吉田高等学校
仙台育英学園高等学校
宮城学院高等学校
仙台白百合学園高等学校
宮城県名取高等学校
聖ウルスラ学院高等学校
常盤木学園高等学校
宮城県第三女子高等学校
仙台高等学校
宮城県仙台向山高等学校
宮城県泉高等学校
宮城県塩釜女子高等学校
宮城県鼎が浦高等学校
宮城県白石女子高等学校
宮城県黒川高等学校

宮城県多賀城高等学校
宮城県第二女子高等学校
朴沢女子高等学校
宮城県涌谷高等学校
三島学園女子高等学校
宮城県仙台第一高等学校
宮城県立船岡養護学校
宮城県南郷農業高等学校
仙台商業高等学校
聖ドミニコ学院高等学校
宮城県仙台南高等学校
宮城県名取北高等学校
宮城県亘理高等学校
宮城県中新田高等学校
宮城県築館高等学校
宮城県第一女子高等学校
宮城県松島高等学校
宮城県若柳高等学校
石巻市立女子高等学校

(39校)

